



# BEE GEES



*Love Sounds 31*

A KYODO TOKYO PRESENTATION '73



そのむかし、スコットランドのママたちがつくってくれたあじさ。そぼくて、なんとなくやさしい。フレッシュなバターをぜいたくに使いました。コクのあるなめらかな舌ざわり。ステキなかみごこち。そっとおクチにいれたら、スコットランドの草原のにおいがするかしら。  
(黒地に赤い花びらです。)

さわやかなすっぱみは、ヨーグルトスカッチ。すっぱいのが好きな人たちのために、ヨーグルトをふんだんにいれてつくりました。なめらかな舌ざわりと、すてきなかみごこちは、そっくりバタースカッチの妹ぶん。そっとおクチにいれたら、涼しいスコットランドの丘の風が吹いてくる。(黒地にグリーンの花びらです。)

スコットランドの伝統のおいしさ。  
50円 150円 明治バタースカッチ  
**チェルシー**  
姉妹品・ヨーグルトスカッチ

CHELSEA



公演スケジュール

9月1日 10:00 P.M. 東京  
新宿・厚生年金ホール 主催一東京12チャンネル  
9月2日 10:00:30 P.M. 東京  
渋谷公会堂(東京民音)  
9月5日 10:00:30 P.M. 福岡  
九電記念体育館 主催一九州朝日放送

9月6日 10:00:30 P.M. 京都  
京都市民会館 主催一山陽放送  
9月7日 10:00:30 P.M. 名古屋  
名古屋市民会館 主催一中部日本放送  
9月8日 10:00:30 P.M. 東京  
渋谷公会堂 主催一東京12チャンネル

9月10日 10:00 P.M. 大阪  
フェスティバルホール(関西民音)  
9月11日 10:00 P.M. 大阪  
フェスティバルホール 主催一FM大阪  
9月12日 10:00 P.M. 京都  
京都公会館(関西民音)

9月13日 10:00:30 P.M. 静岡  
静岡公会館 主催一テレビ静岡  
9月14日 10:00 P.M. 東京  
新宿・厚生年金ホール 主催一東京12チャンネル  
9月15日 10:00 P.M. 東京  
新宿・厚生年金ホール 主催一東京12チャンネル

# BEE GEES

来日メンバー Glyn Hale : Conductor Alan Kendall : Guitarist Dennis Bryon : Drummer 第1部 Special Guest Star : Jimmy Stevens  
東京12チャンネル ビー・ジーズ独占放映 ラブ・サウンズ・スペシャル 9月26日(水) 10:30 P.M. - 11:25 P.M. 提供一麒麟麦酒・明治製菓・松下電器



# イギリスのポップス界とビー・ジョーズ

ロックは、まぎれもなく、アメリカの産物だ。文化である。ロックの歴史を遡るまでもなく、ロカビリー、ロックンロールと呼ばれてきた過去から、現在は単にロックと呼ぶようになったが、もっと広い意味でポピュラー・ミュージックと呼ばれているこの音楽こそ、アメリカの伝統が息づいているブルース、カントリー・ミュージック、民謡のエキスを抽出され、リズムという味付けをされて作り出されたものに他ならない。エルヴィス・プレスリーの出現で、ロックはアメリカにひとと根を生やし、その牙城はゆるぎないものとなった。イギリスのクリフ・リチャード、イタリアのアドリアーノ・チェレンターノ、フランスのジョニー・アリディー、日本の平尾昌章など、プレスリーに刺激されて登場してきたにちがいない。そして誰もかプレスリーのレパートリーをとりあげ、物真似することから始まり、全世界にロックは拡がっていったのである。

しかし1962年からロック＝アメリカという観念がぐらつきはじめた。イギリスにビートルズが現われ、その主導権を否定なしにイギリスに奪われてしまったからだ。アメリカのロック界は枯れはじめ次第にビートルズ化したグループに埋められ、面目をつぶされて行くことになる。しかしそれでも、産みの親アメリカは、ビートルズをはじめとする一連のイギリス勢に“ブリティッシュ・ロック”という呼び方をつけ、本場ものとはちがうんだとがんばっていたものだ。

だがビートルズ・パワーの余勢をかったイギリスは、ニュー・ロックの牙城を

築き、アメリカに主導権を返そうとはしなかった。

もっと具体的にいうならば、ビートルズの遺したものを思い出してみるのが手っとり早い。ビートルズは、それまでの歌手とバック・グループという枠をとりはずした。皆が歌って楽器をプレーするのである。自分達で曲を作り、自分達で演ることを教えてくれた。そして彼等は極めてカジュアルな服装でステージに上ってきた。この風潮はまたたく間に全世界のミュージシャンに伝染した。そしてニュー・ロックは、もうひとつ進んで、それまでは歌のバック・アップにすぎなかった楽器を主役におしたてた。ギタリスト、ベーシスト、ドラマーがスターになった。彼らは楽器で主張し、音楽の中に本物の自由を求めた。マネージャー不在、プロデューサー不在、1曲がレコード片面全部を占領しようともかまわないという“規矩”を無視することで、音楽、特にロックの在り方を変えて行った。こうした出来事もイギリスが火付け役となったのである。しかしここで冷静に考えるなら、ニュー・ロックのミュージシャンが目指した方向は、何も彼等のアイデアではないことに気づくであろう。インプロビゼーションならアメリカのジャズ・メンがとくにやっていたことだし、楽器が主役になったことだって、クラシックやジャズでは、当然のことである。ただ、アメリカのミュージシャンより、イギリスのミュージシャンの方が、そうしたものに気づくのに敏感であったということだ。この敏感さが、イギリスのロック・ミュージシャン或いはレコード・

プロデューサー、A&Rマンといった音楽をとりまく連中には確かにあるような気がする。

こうしてアメリカン・ロックと一線を画してきたブリティッシュ・ロックだが、現状はどうであろう。一時はど、アメリカだのイギリスだのとはっきり分けられるほど、ブリティッシュ勢に精彩がないように見える。どこかで同化してしまったものが、新しい方向がみつからないまま右往左往しはじめたために低迷しているのか分からない。ただロックが音楽としての範ちゆうにのみとどまらず、もっと視覚的、いいかえれば、音に色づけしてきたような現象が起こってきた。これがグラム・ロックと呼ばれるものである。T・レックス、デヴィッド・ボウイといった連中は、音楽をメディアにして、もっと違ったものを出そうと試みていた。メイキャップや服装で度肝をぬくことで音に色彩を与えようとしていた。そのために彼等は、しばしばミュージシャンではなく、ショー・マンと呼ばれた由縁であろう。演奏技術の巧拙より、何着衣裳を替えたかの方が先行してしまっただけ。しかしこうした風潮は、イギリスでは伝統的なもので、かつては、クレイジー・アーサー・ブラウン、ミック・ジャガーあたりがすでに試みていたことである。もはや現象ではなく、ロックの中では伝統的にさえなってきたのか、この種のグループは後を断たない。イギリスでは、スレイド、ロキシー・ミュージック、シルバーヘッド、アメリカでは、アリス・クーパー、イーグ・ストウーグスといった新しいグラム・ロッカーが続々と特機中

である。

一方、こうした華やかなロック・グループとは対照的に、ロック・ミュージックそのものを深く追求してきた一派もちゃんといた。ロック・バンドはギター、ベース、ドラムといったリズム楽器からはじき出されるパワフルなビートこそ身上とされていたものだが、ギターがリードをとり、即興演奏を繰りひろげて行くようになってから、楽器の特性を活かしたものへと移行して行くのみならず、それまで考えつかなかったような新種楽器も登場して、サウンドに深みを持たせる工夫がなされてきた。ムーン・シンセサイザーなどはその最たるものであろう。これは機械に楽器の音を覚えさせ、演奏する時にその音を操作することによってギターともキーボードともつかない、独特のサウンドを出す効果をあげている。エマーソン、レイク&パーマー、イエス、ピンク・フロイド、キング・クリムゾンといったグループは、フルにこうした新種楽器の工夫研究に余念がないようだ。彼等は派手なステージ・アクションや衣裳よりも、まずはサウンドを第1に考え、時にはプログレッシヴな音作りに励んでいるのである。これはまったくイギリスのミュージシャンに特有のことであり、むしろアメリカ側が真似ているぐらいである。だから、いわゆるニュー・ロックはイギリスにおいてのみ、現在に継承され、未来に伝えられて行くように見えるのだ。蛇足ながら、アメリカは現在、プログレッシヴな方向をさせて、むしろダウン・トゥ・アースに目覚めたのか、カントリーやフォークをとり入れた素朴な

音楽に逆もどりしつつあるようだ。

以上挙げてきた大きなふたつの流れ—グラム・ロックとプログレッシヴ・ロックの他に、現在のイギリスの音楽状況をみるとすれば、ローリング・ストーンズを頂点とするハード・ロック・グループの流れであろうか。中でも、ザ・フーのサウンドそのものはストーンズに近いが、彼等はつねに意欲的に活動している。その顕著なもの、ロック・オペラ「トミー」の作成であり、トータル・アルバムをオーストラリアから連れてきて、ビートルズに対抗させるため売り出したというが、真偽のほどは分らない。いずれにせよ、スティグウッドという人は恐るべきプロデューサーである。この人の才能、特に商才はズバ抜けたものがあり、私も幾度か会ったが、学ばところ大であった。グループをがっちりとしよう握り来るマネージャー、そしてグループの個々をも大切に扱えるマネージャーはそう多くはない。マネージャーとミュージシャンのけんか別れ話など、はいて捨てるほどあるのを見ても分かる通りだ。スティグウッドとビー・ジョーズの絆の固さもまた、このグループの今日ある大きな要因であろう。勿論ビー・ジョーズも何度かの危機をくぐりぬけてきている。しかしバリ、モーリス、ロビン兄弟の結束の固さと、兄弟ならではの友愛が、バラバラになりかけたビー・ジョーズを元に戻したのである。

そんな中で、デビュー以来8年間の長きにわたって、人気を誇っているのがビー・ジョーズである。彼等が今日もなおイギリス、日本で人気がある最大の理由は、何であろう。ひとつには、メロディーのさわやかさ—ギブ兄弟のメロディーに

対するセンスの良さと才能であろうことはまぎれもない。もうひとつは、彼等のデビュー以来のマネージャーであるロバート・スティグウッドの力であろう。スティグウッドは、かつてブライアン・エプスタインとともにビートルズ売り出しに力を入れた人であり、後にロバート・スティグウッド・オーガニゼーションを創立して、エプスタインとたもとを訣けた。一説にはエプスタインと折り合いが悪くけんか別れした挙句、ビー・ジョーズをオーストラリアから連れてきて、ビートルズに対抗させるため売り出したというが、真偽のほどは分らない。いずれにせよ、スティグウッドという人は恐るべきプロデューサーである。この人の才能、特に商才はズバ抜けたものがあり、私も幾度か会ったが、学ばところ大であった。グループをがっちりとしよう握り来るマネージャー、そしてグループの個々をも大切に扱えるマネージャーはそう多くはない。マネージャーとミュージシャンのけんか別れ話など、はいて捨てるほどあるのを見ても分かる通りだ。スティグウッドとビー・ジョーズの絆の固さもまた、このグループの今日ある大きな要因であろう。勿論ビー・ジョーズも何度かの危機をくぐりぬけてきている。しかしバリ、モーリス、ロビン兄弟の結束の固さと、兄弟ならではの友愛が、バラバラになりかけたビー・ジョーズを元に戻したのである。

彼等のグループとしての魅力のもう一面は、あのソフトなヴォーカルであろう。バリとロビンの声は酷似しているが、2人ともヴァイブレーションのきいたユ

ニークな唱法を持っている。この歌い方がたまにナイーブで、きく者の心にしみ通るような気がするのである。

私はモーリス・ギブとは気が合って、イギリスへ行くと彼を訪ねるのが、いつも飲たいしてくれる。3人とも、とても気のいい連中で、さわやかな後味を残してくれる。

私が最初に彼等と会ったのは、1965年のことで、“マサチューセッツ”の発売前のことだった。ロバート・スティグウッドがこの曲の率直な感想をきかせて欲しいという。私は1度きいただけですっかりノック・アウトされた。何ていい曲だろうと心底思った。それ以上の言葉がみつからないのが惜しかった。スティグウッドはすぐにビー・ジョーズのメンバーを集めて、私どもは彼のアパートへ連れて行かれた。この曲を、世界中でヒットさせるためには何でも協力するからってくれというのだ。半ば強制的にインタビューさせられ、ついでに、当時私が出していたテレビとラジオの番組に国際電話で彼等の声を送ったりもした。オーガニゼーションは全社員あげてビー・ジョーズ売り出しにとり組んでいた。キャンペーンの内容もすさまじかった。映画部の部長スキナー氏は、ソニーのビデオコーダーで、ハンブルグではいかにすまじい人気ぶりであったかを収めたビー・ジョーズのハンブルグ・コンサートを見せてくれた。これをプロモーション・フィルムに使用したいと思うのだがどうだろうというのである。世界主要都市にビー・ジョーズ・ファン・クラブを設置し、ビー・ジョーズ情報源の根拠地にしようという話

しや、その他思い出せないほどのアイデアが話されたり求められたりで、私もビー・ジョーズ要員の1人にされてしまったようだった。

この大々的なビー・ジョーズ売り出し作戦に対して、メンバーは従順に従っていた。スティグウッドを100%信頼しているから、ビジネスのことは一切彼に委せているんだとバリは話していた。ただし一歩レコーディング・スタジオに入るや、主導権は彼等が握っていた。スティグウッドは一言も余計な口ははさまない。この統制こそ、ショー・ビジネスに動く人間には必要だと思ふのだが、昨今は、全部自分達でやるのをよしとする風潮が強いようだ。音楽家がソロバンをはじいていたら本来の仕事がおざなりになると思ふのだが、どうも1ドルでも余分に人にとられるのがいやらしい。

私などは、“ラブ・サムバディ” “マサチューセッツ”といったビー・ジョーズ初期の曲が好きであるが、むしろ日本では“メロディ・フェア”の映画と主題曲でビー・ジョーズの株がぐんと上ったようである。ビートルズと同様に、ビー・ジョーズの音もいつの時代にも受け入れられる要素がありそう。そのやさしさと甘さは、才人の求めるものと合致しているし、特に個性的でないところも、流行と釣りなくていい。エネルギー豊かな貴重なグループのひとつである。

『ミュージック・ライフ』編集長  
星加ルミ子



# 座談会：ビー・ジョーズの魅力語る

平均的な強味をもつビー・ジョーズ

——ビー・ジョーズのファンというのは、幅が非常に広いでしょう。ある年齢だけとは限らなくて、うんと若い人から、うんと年齢の人までビー・ジョーズのファンがいるわけですね。こういうのは、外来音楽としては、日本においてはまれなんです。ビートルズが全盛のときでさえも、ある年代の人だけにしかアピールされていなかったけれども、いまのビー・ジョーズというのは、浸透してるでしょう。平川：浸透してるといえば、してるだろう。要するに、それだけむずかしいからじゃない？ 平田：そうですね。だれにでもわかる。平川：あのグループは、理屈こねなくてすむでしょう。それに、アメリカ風なのか、イギリス風なのかということも、わからないみたい……。——この人たちは、もともとはオーストラリア人なわけですね。オーストラリア出身ですね。オーストラリア人というのは、非常におもしろいですよ。なにか、世界の感覚を持ってる。イギリスだけのものでもないし、アメリカだけのものでもないし、少しずつ、インターナショナルな感覚を持ってる人が多いと思うんですけどね。平田：オーストラリアで生まれたんですけど？

——でしょう？

平田：イギリスで生まれて、オーストラリアへ渡ったと、ちょっと聞いたんですけど。岡田：イギリスで生まれて、家族と渡って、それでまた戻ってきた。平川：どっちかというと、育ちはオーストラリアでしょう。——実際、日本でもビー・ジョーズというのは、レコード全社に聞くと、レコードが売れてるそうだし、出すレコードが平均して売れてる。ものすごく売れてないものもなければ、出るとすぐ、飛ぶように売れたというのもないかわりに。平川：ビー・ジョーズを出すときと持ち直すという話もあるから(笑)。——こういっちゃ悪いけど、日本ではさほど宣伝しなかったでしょう。むしろ、ラジオ・メディアなんかをとおして、聞いてる人たちの間から、ビー・ジョーズはじわじわと人気が出てきたというんでしょう。平川：そもそもの人気の出方というのは、ぼくはいちばん責任を持たなければいけないのは、「ミュージック・ライフ」だと思ふよ。だって「ニューヨーク炭鉱の悲劇」というのは、一番最初あまりヒットしなかったでしょう。だけど、あれをいい、いいと宣伝したのは「ミュージック・ライフ」だよ。

——すばらしいこと、いってください。はかの原稿でも書きましたが、私はイギリスで彼らに会って、強引に彼らのアパートまで連れていかれて、レコードを聞かされたわけ。もう、すばらしい、これは日本はもちろん、世界的にヒット間違いないと。で1枚、デモ用のレコードをもらって帰ってきたんです。当時、私はTBSで深夜の、いまもやってる……平川：「バック・イン・ミュージック」。あなた忘れちゃ困る、初代なんだから。——帰ってきて、「バック・イン・ミュージック」にすぐかけたの。そうしたら、次の週にものすごくリクエストがきたんです。それで私、ビー・ジョーズという名前を日本人でもある一部の音楽ファンは知ってたかもしれないけれども、やっぱり、直接のビー・ジョーズ・ファンを獲得した曲というのは、あのときの「マサチューセッツ」だと思うの。平田：そうですね。そのあと、続いてたくさんヒット曲が出たんですね。

ビー・ジョーズ・サウンドの推移と魅力

——その後、解散したというか、メンバーがバラバラになって、兄弟以外の人々が2人抜けちゃったりということ、一時、ちょっとスランプ状態がありましたね。それで、私いま思うんですけど、たとえば「メロディー・フェア」が、映

画とともにこの曲があたって、新しいビー・ジョーズのファンが、そこでいっぱいいたと思うんです。昨年ですね。そうすると、私たちが前半、後半にビー・ジョーズ・サウンドというものを分けたときに、平田さん、どっちが好きですか。平田：自分がラジオのヒットパレードでたて続けに聞いた、初期のヒット曲がいいですね。

——すなわち前期、後期と分けられるくらい、ビー・ジョーズ・サウンドに変化がありますか。平田：私はそれほど前期、後期というふうには感じませんね。ただ、話がちょっと飛びますが、この間出たので、ちょっとタイトルを忘れたんですけど、音がすごく幅のあるつくり方になってきた気がします。

——具体的にいうと？ 平田：以前からストリングスとか、そういうオーケストレーションを使ってたけど、そういうものの使い方が、より洗練されたというのかな。ビー・ジョーズというのは、すごいロマンチズムがあるんだけど、どこか泥臭い感じがあるわけ。カーペンターズみたいに、ロマンチズムが完璧に洗練されてないんですね。どこか泥臭いロマンチズムがあって、それが、悪いことばでいえば、ミーハーもおとなの人までにウケると思うんです

けれども、それが、今度ではすごく洗練されてる。

——いま、前半、後半と分けられるほど大きな差はないとおっしゃったけれども、たとえば、「メロディー・フェア」以降、ビー・ジョーズ・ファンになった人たちに、「マサチューセッツ」や、「ラブ・サム・バディー」を聞かせても、その人たちはやっぱり、いいというかしら。岡田：「メロディー・フェア」とかは、初期のアルバムに入ってたやつで、これは、ぼくの感じなんですけれども、ビー・ジョーズの場合は、「傷心の日日」という大ヒットがありましたが、あの頃から、音づくりというのはすごいスケールの大きい……。それほど微妙な差はないと思うんです。ただ、オーケストラのアレンジとか、それがダイナミックになって、幅広いサウンドできたと思うんです。ただ、ビー・ジョーズがいいと思ってることは、すごい哀愁をただよわせながら、叙情があるというのかな、そういうスタンダードが、まさに日本人にピッタリなんじゃないかなと思うんです。「マサチューセッツ」にしても「ホリデー」にしても、それを知らない人たちが、いま聞いてもけっこう好きになるんじゃないかと思えますけどね。

——こんなに移りかわりの激しい今の音楽界で、アメリカ、イギリス、日本を見ても、悪いえば、ほとんど変化のないサウンドを、ずうっと持続してきたビー・ジョーズが、何代にもわたって、たとえば自分のお兄さんか、お姉さんが好きで、それを妹、弟が聞いて、いま好きになってると思うんです。その根本に流れるビー・ジョーズのメロディーの魅力というのは、いったい何でしょうか。平川：いちばん感じるのは、聞いてる人に歌える部分、必ずあるということ。ぼくは、ビー・ジョーズのコンサートを見てないんだけど、たぶん、こうなるだろうという感じがするのは、「マサチューセッツ」にしても、何にしても、「さあ一緒に歌いましょう」といわれて大声で歌う、あの類いじゃなくて、彼らが歌ってるステージを見ながら、何となく頭の中でハミングしちゃうみたいな、そういう曲ばかりでしょう。もっと別な

方をすれば、スタンダードとして固定化されて残るような、はっきりしたメロディーを持ってる。その辺に、すごい魅力をばくは感じるんじゃないかね。

ビー・ジョーズの清潔感について

——もうひとつは、ビー・ジョーズというのが音をととしてですけども、いわゆる清潔な感じがするんじゃないですか。平川：するね。——あの清潔感って、日本人はとくに好きでしょう。レターメンなんかアメリカでは忘れられてるのに、いまだに、日本じゃレターメンという、ワアアとくる。そういう感じね。平川：アンディ・ウィリアムスとかね。いま、ちょっと思い出したけれども、ルルと別れたって話があるけど……。平田：別れたんでしょう。

——ほんと？ もう別れちゃったの？ ちょっとデメリットですね。平川：この前日本にきたときは、ルルが舞台袖のところで、一生懸命になって見てたというんで、それでもウケてたでしょう。——でも、ビー・ジョーズ・ファンにしてみたら、ルルが悪いから別れてやったと、こういう感じじゃないかしら(笑)。どうしても、ビー・ジョーズは清潔で、悪いものにはならないわけ。バリー・ギブは結婚しなくて、同棲してるんですよ。いまだに結婚式あげてない。ま、それはどうでもいいですけど(笑)。でも何というか、「メロディー・フェア」の映画自体も、ビー・ジョーズの清潔感を盛り立てるには、ものすごくいい材料になってるでしょう。平川：そうだろうね。——昨年も、私びっくりしたんだけど、親子連れでコンサートにきてる人がたくさんいたわね。それも、なぜか、おかあさんときてる。おとうさんはきてないのよ。あれ、どうしてでしょう。平川：どっちかというと、やっぱり女性向きなのかもしれないよ。平田：だから、くすぐるようなロマンチズムなんだろうね。いやらしいロマンチズムじゃなくて、さわやかな。それで、若い女の子たち、たとえば、中学

生なんかでも、よく地方の人からときどき手紙を個人的にもらったりすると、たとえば、ビー・ジョーズとか、シルビー・バルタンとか、好きな人を見に行きたいのに、行くのを許してくれないんですって。で、おかあさんが一緒に行くなら見せてくれる。レコードなんか聞かせたり、写真なんかも見せて、これならうちの娘もいだろうと、一緒に2枚券を買って見に行くという話を、2、3回聞きましたね。平川：そういうのには、絶対、最通ね。——文部省推薦ね(笑)。平川：文部省推薦はオーバーだけど、確かにベタつかないのね。それでいて、表面だけで通り過ぎないところがあるでしょう。——バリー・ギブにしてもロビンの声にしても、強烈ではないけれども、パイブレーションきかせて、非常に個性的な歌い方ですね。平川：あれは、よく聞くとセクシーなんだよね。平田：そうなんです。いやらしいですね。——そう？ 平川：あなた女じゃないね、感じないなんてのは(笑)。——だって、男の人が感じるセクシーさっていうのは……。平川：ぼくら、声を商売してるから、ぼくが感じなくても、あれはセクシーなはずだってだいたいわかるわけ。平田：ロビン・ギブってセクシーですよ。変なように、小節きかせるというか、パイブレーション……。——あの歌い方は、なかなかまねできないですね。あれはビー・ジョーズ・サウンドの著しい特色ですね。平田：前回の武道館のとき、私は実際にコンサートは見なくて、あとで2チャンネルで見たんですけど、マイクのあれて手を押えて、バックの演奏を一生懸命聞き取ろうとして、そっちに気をとられて、音程がくるってるのか、持ち味のパイブレーションなのか、ちょっとわからないところがあつたりしました。——鶴田浩二のように、耳を押えながら……。

平川：あれはいわゆる、おかあちゃん連中には、ルミちゃんより年上の方々には、セクシーだとか何とも感じなくて、ただ清潔に見えるから、これはいいだろうということになる。中学生、高校生の女の子には非常にセクシーなんだ。——中学生のころの感覚、忘れた。古い昔の話ですもの。それからもうひとつ、こういうよさはどうですか。たとえば、だんだんロックというものか全盛になってくるに従って、いわゆる、ロック・ミュージシャンというのは、あまりステージ衣裳に対してかまわなくなっちゃったでしょう。いわゆるGパンはいて、Tシャツ着て、ステージに登って、そのままプレーして、終わったらニコニコとして、たばこ吸いながら降りてきて、それがひとつのコミュニケーションみたいにいわれた時代があつたけど、ビー・ジョーズの場合には、いかにもスター然としてるでしょう。やっぱり、ステージの上の人だという、若い人たちの夢とか、あこがれを、ビー・ジョーズに反映させるというのはないですか。平川：それはむしろ、あこがれというより、格调の高さみたいな感じにつながるんじゃない？ さっきいった清潔感みたいなものと同じ。岡田：確かに、コンサートのようにいちばん感じたことは、何となく洋服着てても、バチッときまつてる。イギリスの古い気品というか、ムードがピッタリというか、それで伸びのあるフィーリングで歌ってサマになる。見るからにビー・ジョーズ・サウンドというのがあるんじゃないかな。平川：あれは、自分たちの音楽を意識した上の服装だよ。——ビー・ジョーズは、ものすごくビジネスマンというか、商売にたけてるというか……。平川：それはそうでしょう。あなたがつかまつたという敏腕のマネージャー氏も……。ビー・ジョーズのスタッフの偉さ

平田：やっぱり、兄弟以外の人を抜かして3人になったほうが、よかったんでしょうかね。いろいろ、お金の問題とかあ



星加ルミ子



岡田三郎



平川清国

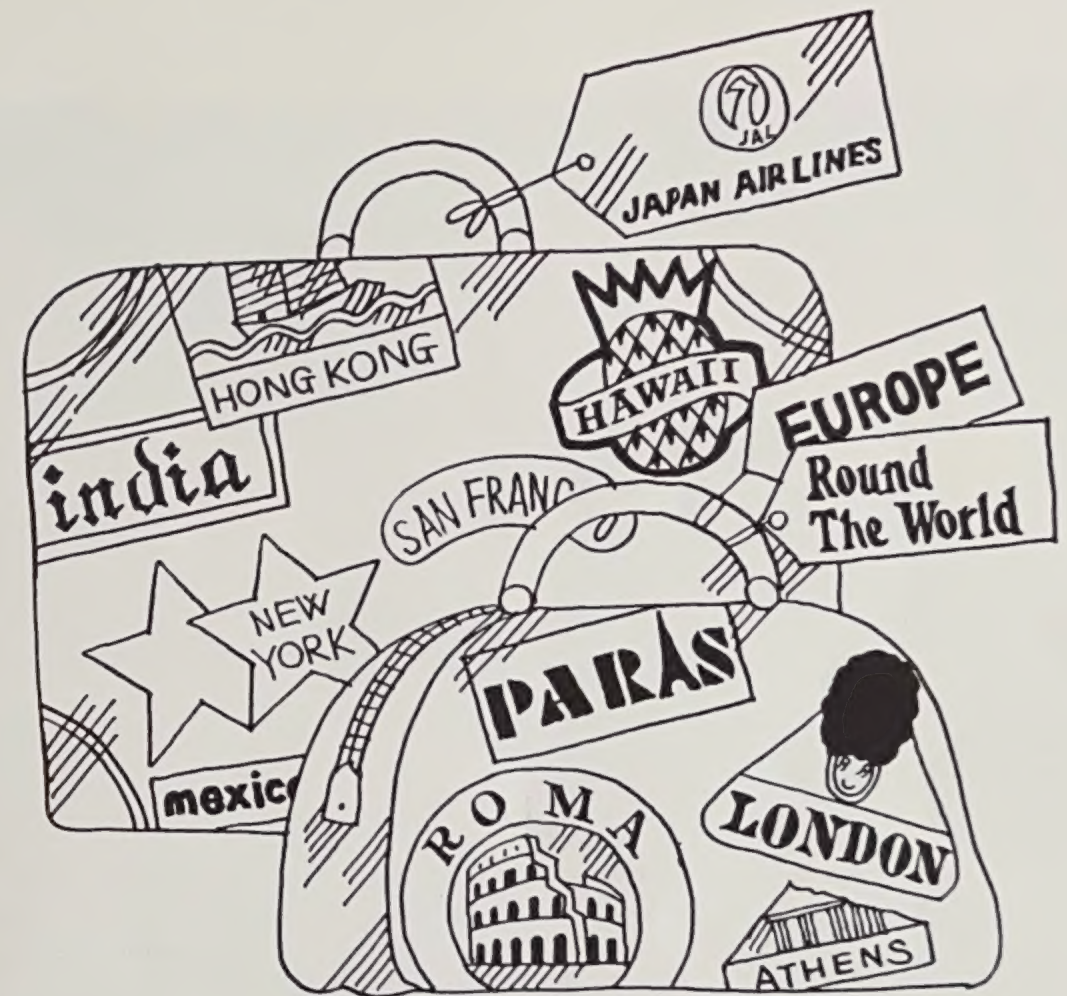


平田良子

出席者(アイウエオ順)  
岡田三郎  
フリーディレクター  
平川清国  
TBSラジオ・ディレクター  
平田良子  
音楽評論家  
司会=星加ルミ子  
「ミュージック・ライフ」編集長



## いい旅しよう—行きたい国へ。行きたい街へ。



# JALPAK

日本航空

こんどこそ海の向こうへ出かけませんか。そして同じ行くなら、自分の目的に合った、満足のいく「いい旅」をして来ましょう。ジャルパックなら世界中へ選りとりみどり。心の休まる海外休暇にしたいとか、視野を広めて来たいとか、遊びに遊んで来たいとか、自分の「したい旅」が見つかります。それに、ジ

ャルパックなら行ってからの素晴らしさがちがうのです。ガイドはベテランぞろい。旅程は専門プランナーが練りに練ったもの。ホテルは厳選。オプション・ツアーも多彩。どのコースも粒よりで全く安心です。旅行中のお世話が行き届いているジャルパックで、あなたなら、どの国へどの街へ——。

海外旅行の第一歩は資料請求から——クーポンをハガキに貼り、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、ご希望コース、出発予定日などをご記入のうえ、郵便番号100-91 東京中央郵便局 払書箱205号 日本航空マイルボックスあてどうぞ、詳しいパンフレットをさしあげます。

クーポン  
キョードー東京

るんでしょけだね。  
——それはそうでしょうね。けんかし  
たって、兄弟、親子だと思えば……。そ  
れ以上のけんかになっちゃえば別でしょ  
うけど。平川ちゃんは、昨年、ビー・ジ  
ーズがきたときインタビューした？

平川：しなかった。

——全然会わなかった？会いました？

岡田：記者会見に行った。

平田：私も行った。

岡田：確かにビー・ローズ以上に、まわ  
りにいるスタッフのほうか有能だと思っ  
たね。それは、すぐ感じましたよ。記者  
会見するにしても、スタッフがすごい気  
をつかってた。

——ものすごく大切にされてるグル  
ープですね。だから、話してもガムツき  
がないの。おっとりして、自分たちは音  
楽のことだけを考えてればいいってう  
ふに、まわりが、ちゃんとしてくれる  
るみたい。だから余計なこと一切考えな  
くて、ビー・ローズは演奏する、歌うグ  
ループ。そしてほかのことは、まわりの  
連中がみんなやるというふうな、ひとつ  
の行為の権限を、きちんと守ってる。実  
にいいブレーンがそわってると思うん  
です。

平川：プレッシャーに屈してるじゃない。

平田：やっぱり、ショー・ビジネスの  
スターでしょう。

——演奏してる連中が、お金のことを  
考えながら、頭でそわばんはじきながら  
演奏してる、いいものはできないじゃ  
ないかな。そういうことはそういうこと  
で、きちんとやってくれるしっかりした  
人がいて……。

平川：前回見てきた、ぼくのまわりの人  
の感想は、やっぱり、イギリスを地盤に  
してる人たちだけあって、ショーという  
面では、いわゆるショーではなくて、コ  
ンサートだという感想を持って帰って  
きたな。あれでショーができるのはちよ  
っと思えないし、やったとしても、たぶ  
んどタバタタと終わっちゃうんじゃない  
か。

平田：そういう意味ですね。音楽をじっ  
くり聞かせるという感じがですね。

——さっき、バイブレーションをきか  
したヴォーカルは、何気なく聞いている  
とわからないけれども、制性的であるよう

に、ビー・ローズの人間性をとらえてい  
うと……。『人間性』というとオーバー  
ですけれども、どこにでもいそういて、  
そのくせ、ああいう3人というのは、な  
かなかないでしょう。兄弟であるなし  
は抜きにして、こういうひとつのチーム  
ワークというもの、あのグループの生  
き続けている根拠にある原因のひとつじ  
やないかと思えますけどね。

平川：それと、ああいうグループは、ど  
うしたって流行を追いかけ、表面に出  
てない心配でしょうがないという面が  
あって、新しいもの、新しいものと、普  
通なら追いつけるじゃない。その辺を結  
局は、一般はこれ好きははずなんだと  
押えてるところなんぞ、このマネージャ  
ーは、やっぱりたいへんなものだと思う  
よ。

——また、それにそうどうなづいて  
てる、ビー・ローズもたいへんなもので  
すね。

平川：もちろんそうだけれど、それをう  
なづかせるだけの何かがあるから、そう  
なんだろうね。

岡田：ビー・ローズって、6年でしょう。  
それにしても、みんな若くて、ちょうど  
いま、23-4ぐらいでしょう。

平田：もう少しってるんじゃないかな。  
26ぐらいじゃない？

岡田：デビューしたのが、かなり早かっ  
たでしょう。20才前後ぐらいだったでし  
ょう。ミュージシャンとしてやりたいこ  
ともいっぱいあったと思うけど、そのわ  
りには、全然ゆれなくて、スパッときて  
ますね。それがすごい。

平川：よっぽどいいスタッフをそろえて  
ると思う。ルミちゃんも、そのマネー  
ジャー氏にしか会わなかったわけ？

——そのことは、ほかの原稿に書き  
やったから……。

平川：ぼくはおそらく、アメリカでも、  
表面に出てるものと違って、一般大衆に  
うけてるのはビー・ローズみたいな、あ  
あいう一見わかりやすい音楽だと思うよ。  
それは、イギリスへ行くとおそろじゃ  
ないかと思うよ。その辺をつかまえて  
る人のほうが、ビー・ローズそのものより、  
やっぱり偉いでしょう。

——日本と、アメリカと、イギリスの  
ほかでは、ビー・ローズは、どの辺なの

かしら。

平川：本国のオーストラリア(笑)。

——本国のオーストラリアは、いうに  
及ばずでしょうね。きつと。フランスな  
んかだって実際には、私は知らないけれ  
ども、ビー・ローズ・サウンドなんて、  
意外にかかてるんじゃないですかね。  
万国の人間に共通するものを持ってるん  
でしょう。ビー・ローズみたいな音とい  
うのは、どこの国の人でも、こういうサ  
ウンドが好きで連中というのは、必ず  
いるんじゃないかしら。

平川：いるでしょうね。

### ビー・ローズの今後について

——いまはともかく、過去6年間、ビ  
ー・ローズというのは、ほんとうの意味  
で人気のある、幅広い人気を持つグル  
ープとして君臨してきたんだけれども、今  
後のビー・ローズはどうですか。このま  
ま彼らがいくとして、いわゆる新しいフ  
ァンを獲得していくという意味で、将来  
性ははどうですか。

平川：表に出てくるグループじゃないか  
もしれないけれども、このまま、年相応  
に音楽ができていったら、落ち着いたグ  
ループとして、ちょうど、いまのレター  
メンみたいなグループになり得るんじ  
やないかと思うけど。要するに、パーッ  
とした商売を考えなければ……。

岡田：はでな人気は出ないけれども、も  
う安定した一線を保つんじゃないかな。

——ビー・ローズの音楽というのは、  
いわゆるイージー・リスニングでもない  
でしょう。かといって、ロックのよさも  
もちろんありますけれども……

平川：だけれど、ぼくはイージー・リス  
ニングだと思うな。

——カーペンターズも、イージー・リ  
スニング？

平川：カーペンターズより、もっとイー  
ジー・リスニングだと思うね。カーペン  
ターズの曲というのは、むずかしくて歌  
えないもの。

岡田：カーペンターズって、簡単なよう  
で歌えないですね。ハミングするところ  
ぐらいしか歌えない。

平川：すごくむずかしいよ。

——それは、カレン・カーペンターと  
一緒に歌おうとするからよ(笑)。あの

はうまいですよ。

平川：どうして、あんなにうまくなっ  
ちゃった。昔はへただったのにな。

——ビー・ローズだって同じよ。なか  
なか一緒に歌えないよ。歌える曲ではあ  
るけど。

平川：だけれど、「ホリデー」なんて、ち  
よっと頭の中で考えると、むずかしそう  
な感じするけど、歌ってみるとスッと歌  
えちゃうよ。

——あら、すごいわね(笑)。でも、そ  
のわりには何とかコンテストなんてやっ  
ても、ビー・ローズふうというのは出て  
こないじゃない？

平川：だって、コンテストでパーッと目  
立つような曲じゃないもん。

——じみ過ぎみたいね。

平川：コンテストで先生方に認められ  
る曲じゃないよ。だけれど、あれをバッチ  
リやれたら、コンテストで優勝できるな。

——そうね、きれいなハーモニーつけ  
て。日本人はちょっとハーモニー音痴だ  
から、なかなかうまくいかない。ビー・  
ローズに匹敵するようなのといったら、  
カーペンターズがいちばん近い存在だ  
けれども、ほかにはいますか。

平川：カーペンターズは、ずいぶん遠い  
存在だね。

平田：ぜんぜん遠い。でも、日本に  
いると近い。

——日本にいと近いよ。

平川：そうかね。

平田：サウンド自体はぜんぜん違いま  
すけど、存在がね。

——結局、いまはでに騒がれてるニ  
ュー・ロックというか、ハード・ロックに  
してもそうだけれど、ああいうものは、騒  
がれてるわりには、レコードの売り上げ  
はずっと落ちるでしょう。

平川：そうよ。だってそれは、ほんとに  
マスコミだけだもん。「ミュージック・ラ  
イフ」だけだもの、騒いでるのは(笑)。

——でも、意外に「ミュージック・ラ  
イフ」が騒がれないビー・ローズとか、カ  
ーペンターズというのは、実際には売れ  
てるわけね。

平川：そうよ。

——みんな、何で知ってるでしょう。

平川：その辺に注目してくださいよ(笑)。



# BEE GEES

## ビー・ジーズ・クローズ・アップ フェイス拝見



### バリー・ギブ

過去から現代に至るまで多くの音楽家が世に送り出されて参りましたが、音楽という仕事だけではなく、あらゆる仕事にも一流から末端まであるのが人生であります。

一流には一流の悩みがあり、末端には末端の苦しみがあるものです。しかし人間は自分の好む道の第1歩から一流を目指して、向上し伸び上がろうと努力はするが、秘らずに消えてしまう人も数多くあるものです。

運、不運の人間性も重大であります。バリー・ギブ君の生年月日と人相、彼は稀に見る一流音楽芸術家であります。東洋の人相学という音楽の美と神秘性を追求める人相であり、彼の眼は音楽の美と夢を運ぶ吉相です。

時には強く時には弱く人の心をひきつけることの出来る、音楽家独得な良相であるが、仕事に忠実すぎて時には兄弟愛も、周囲の人間関係までも犠牲にしやすい。これからはこの点に良く気をつけることです。これから2、3年すると彼が第2のビー・ジーズを養成するかもしれませんが、むしろその方が良いといえましょう。



### ロビン・ギブ

ロビン君は幅の広い芸術家の相です。兄のバリー君と少し違いますが、彼の眉毛と目相です。これも音楽芸術では第1級のクラスですが、目がバリー君よりやや弱い、眉も下り眉ですが、これがイギリス人特有な相です。

兄弟のなかで一番明るくユーモアもあり、兄弟のトラブルも、周囲の対人関係もうまくまとめて行くのも彼でしょう。愛情も全身で受け止めて行く堅実型ですが、裏切りは許せない性格です。

現在の仕事に的を得た仕事です。1974年からの彼の音楽性が楽しみです。彼の相は、音調の聞きわけが発達した巧みな音楽家の相です。

西洋骨相学研究家のウェルス氏も、額の横に広がるのが音調性発達の表象といっていますが、適切で、これは東洋の相学も同じです。額の横に発達した相は外人の特徴で、堅に高いのは東洋人の特徴です。従って外国人は、一般に音楽の趣味が発達しているのもよくわかるといえます。



### モーリス・ギブ

3人兄弟そろって、口はやや大きい方です。とくにモーリス君の口は優秀なる芸術家であり、社交性もあります。少し奥目ですが、これは芸術だけでなく宗教家としても、教祖として熱狂的な指示を受けることでしょう。

音楽芸術では最高のギタリストであり、これからは作曲面にも新しい分野を開いていくことでしょう。芸術という仕事に関しては、最高の努力と実行力のある人相です。音楽芸術で人々の心を慰め楽しませるのも、彼の得意とするところであり、彼のよき人間性かもしれませんが、名誉より人気を大切にすると彼独得の神経からでしょう。

彼のひげは独得なひげです。一口にひげといってもあごひげ、口ひげにしても人相の1部でありますし、人間の運命に多少でも掛かりがあります。相法という口ひげは、富のことであります。あごひげは地位を表わしていますが、モーリス君は口ひげ、あごひげ両方が吉相です。

彼は財運もあり、地位の栄達もあるでしょう。そのひげに光沢があればなお吉相でしょう。ともあれ、3人3様です。誰かが1人別れてしまえば、彼等の音楽の魅力は半減してしまいます。では1974年をお楽しみに。

《人相研究家：浅井金龍子》





# BEE GEES

ここ数年間、ヘア・スタイルの流行は忙がしく動きまわっている。トップ・ファッションを追いかけるには、よほど眼を光らせていなければダメ。しいていえば、ソフトなリーゼント・スタイルがトップを走っているといえるようだ。

彼ら、ビー・ジーズのメンバーもトップ・ファッションとはいいいくいが、長

髪族の仲間入りをして久しい。

どちらかというとイギリスより、アメリカの若者に多くみられる長髪スタイルのようだ。

クルー・カットの青年がいつのまにか長髪になったようなナチュラルで、清潔な感じが強く、「クリーン&ナイス」というコトバがピッタリとあてはまりそうだ。

ギンギラのトップ・ファッションを追うわけでもなく、マイ・ペースといったところなのだろう。

ロンドン郊外にある緑に囲まれた赤レンガの家、カリフォルニアのフリー・ウェイ沿いのオレンジ畑などを連想させる、さわやかなヘア・スタイルなのだ。

〈ヘア・デザイナー：朝田孝一〉



ヘア・スタイル拝見



# BEE GEES

来日するアーティストたちの服装には楽しいものが多い。

土の臭いだらけのジーンズ・ファッション、グラムと呼ばれた都会派ギンガラ・ピカピカ・ファッション、インド人もドギツとするようなインド・ファッション……と連ねたらきりが無い。

ビー・ジョーズのファッションにはそう

した派手さはない。彼らはイギリスのキャンパスでよく見かける、どこことなくラディショナルな香りのするカジュアル・ファッションが好みようだ。

例えば、ピンクのなんのへんてつもないシャツをノータイで着て、黒のベッチンのスーツをなに気なく、さり気なくひっかける。

日本の若者にもスナリまねのできる、キャンパス・ファッションだ。

新しいことに大なる価値を感じるものが多い日本の若者にとって、食いたりなさが残るようだが、流行という魔物に機械的な洗脳を受けることのない、伝統に消化されたファッションも大事にしたものだ。 《平凡パンチ：吉田弘》



ファッション拝見



## バリー・ギブ

1947年9月1日、イギリスのマン島（オートバイ・レースで有名）のダグラス生まれ。3兄弟の兄貴。

担当はリズム・ギター、ヴォーカル。好きなアーティストはビーチ・ボーイズ、ブレッド。好きなソング・ライターはバート・バカラック。

3人の中ではいちばんの長身で、スタイルもよく、1969年にはイギリスにおけるベスト・ドレッシングNo.1に選ばれている。

彼はモーリス、ロビンと共に多くの名曲を書いている。勿論彼等の歌う曲のすべてが彼等自身のペンによるものだが、「イン・ザ・モーニング」「ラヴ・サムバディ」「ワーズ」その他はエルヴィス・プレスリー、フランク・シナトラ、トム・ジョーンズ、エンゲルベルト・フンパーディンク、ディーン・マーチン、ホセ・フェリシアノなど多くのアーティストに取りあげられ歌われている。

ビー・ジーズはメロディ・メイカーであり、そしてヒット・メイカーである。



## ロビン・ギブ

1949年12月22日、同じくマン島のダグラス生まれ。彼とモーリスは双子子である。

担当はヴォーカル。好きなアーティストはビートルズ。

彼の独特な歌い方が、ビー・ジーズの特徴のひとつでもある。いつも歌う時は耳に手を当てて、自分で納得しているように歌う。一方歌っていない時やステージを離れた時は2枚目半で、とても、ゆかいな人間である。

彼は自分の出版社を設立して、自分で書いた曲や、3人で書いた曲は、そのまの権利を持っている。



## モーリス・ギブ

1949年12月22日、マン島ダグラス生まれ。担当はベース・ギター、ピアノ、ヴォーカル。好きなアーティストはビートルズ、ステファン・スティルス。

3人の中ではいちばん背が低く、3枚目の要素を持っている。彼のベースはポップなフィーリングに溢れ、彼等のサウンドをひき立てている。1962年にルルと結婚したが、最近離婚したというニュースが入っている。

彼はビー・ジーズで演奏し、歌うだけでなく、ティン・ティンというグループのプロデュースをしたり、また、最近彼等と一緒にコンサートをしているジミー・ステイヴンスのバックを勤めたりしている。

1967年に5人でスタートしたこのビー・ジーズは、1人抜け、2人抜けと、メンバーがグループを脱退し、最後にはバリーとモーリスの2人だけになってしまった。しかし、ロビンが再び兄弟のところへ戻り、ビー・ジーズは再スタートした。

再スタート後は「ロンリー・ディ」「傷心の日々」となて続けにヒットを放ち、ミリオン・セラーとなり、ゴールド・ディスクを買っている。

ラヴ・サウンズの王者の名に恥じない実力と人気を持っているその秘訣は、バリー、モーリス、ロビン3兄弟の息の合った作詩、作曲、演奏、ヴォーカル、私生活にある。



## メンバー・プロフィール





1942年、リバプールのアラートンで生れる。9才でピアノを弾きはじめる。パディ・ホリー、レイ・チャールズ、ファッツ・ドミノ、アーサー・アレキサンダーに影響を受けながら、独学をつづける。63年、はじめて作曲した「ベイビー・ザッツ・イット」をリバプールのグループ、ヤング・ワンズで吹込み。この曲は大ヒットにはならなかったが、その後彼は作詞・作曲に精力を費し、リバプールのパブやクラブなどでピアノの弾き語り

をやる「ジミー」として有名になった。それから妻と3人の子供を従え、苦しい生活が長い間つづいた。この間、彼は「本も売ったし、皮の靴縫いパンドも作った。縫工場で働いたこともあれば炭鉱でも働いた。道路の舗装人夫もしたし、種を小包につめる仕事なんでものまでやったものさ。」とユーモアをまじえながら語っている。71年暮、モーリス・ギブに見出されたことから、レコーディングのチャンスが

訪れる。初のアルバムのタイトルは「ドント・フリーク・ミー・アウト」、同年8月にアトランティック・レーベルより発売されたほか、このアルバムより「バイ・バイ・ラブ」がシングル・カットされヒットした。今は4人目の子供も生れ、新しい家で幸福な毎日を送っている。「この子供は政府の年金の補助は受けずに生れたんだ。」とジミーは語る。「税金で払い戻しをはじめたようなものさ。」と――。

# JIMMY STEVENS



おしゃれを楽しむときは、  
やっぱりそのムードにあつた  
サウンドが絶対必要です。  
例えば、この秋流行のモスグリーンのコート・ロイ・ジャケットを  
着たときにはピージースがピッタリ――



**an·an の**  
**おしゃれな世界のB・G・Mは**  
**おしゃれな音楽 = Love Sounds**

**an·an**

★★★★毎月2回5日と20日発売★★★★

東京銀座・平凡出版



[illegible]





## ●過ぎ去りし愛の事

Don't Wanna Live Inside Myself

虎んだムードが、独特の美しさをひきだすバリー得意のスタイルが良く生かされた作品。地味ながらこの曲の魅力を理解する人は相当のビー・ジョーズ・マニアといえるだろう。センチメンタリズムに縁とられたバラードだ。

## ラン・トゥ・ミー

ザ・ビー・ジョーズの新しい夜明け  
To Whom It May Concern  
MP-2274

アコースティックなサウンドからダーティ・ロックまで、かなり多面的なイメージを追求しているのが目だつLP.1972年6月に発表した12枚目の作品である。ヴォーカルの魅力とハーモニーの魅力、そしてバック・サウンドとのアンサンブル。そのバランスのとれた完成度は立派にLPアーティストであることを証明する。そしてまた永遠のロマンを保持し独自の個性を力強く訴えかけるLPでもある。ここからは3曲がシングル化された

## ●ラン・トゥ・ミー／Run to Me

いかにもビー・ジョーズらしいロマンチシズムに溢れた、甘く夢みるような、ほんのり哀愁を漂よわせる作品である。コーラスで広がりをもたせた構成も、彼らが相当の実力をたくわえてきたことが良くわかる。

## ●アライヴ／Alive

ゴスペルっぽいピアノをフィーチャーしたこの曲は暗い陰りをもった作品。バリーのヴォーカルが効果をあげるのは大体こういう作品に多いが、堂々と力唱するバリーの歌声でスケールの大きなバラードに完成している

## ●ほほえみの海

Sea of Smiling Faces

厚いストリングスとキーボードにアコースティック・ギターという、メロディを豊かに奏でるバック・サウンド。バリーとロビンとの息のあったハーモニーでゆったりと歌いあげる可愛い感じの作品

## ライフ・イン・ア・ティン・キャン

Life In A Tin Can MW-2066

今年の3月に発表された13枚目のLPアメリカで初めて録音し完成させたLPでもある。そしてまた初めて自分たちが

けてプロデュース。アレンジはジャズ畑の人、そしてバックには珍しく有名なミュージシャンを多数起用するなど、彼らとしては大幅なサウンド改革を期待して実験を試みた。いわば新生ビー・ジョーズを確立させるLPでもあるわけ。ここからは1曲がシングル化されている。

## ●希望の夜明け

Saw A New Morning

アコースティック・ギターの素朴さに、重厚なストリングスで力強い仕上げがほどこしてある。コーラス・グループとしての実力を存分に発揮できるように作られた曲のようだが、切れ味の良い澄んだ空を思わせるサビの部分のメロディーが印象的だ。

## ベスト・オブ・ビー・ジョーズ Vol.2 MW-2073

今年6年に発表されたベストLPの2枚目。そして14枚目に相当するLPでもある。内容は再録後後に放ったビッグ・ヒット「ロンリー・デイズ」以後のヒット曲を中心に、過去のLPからも数曲ピックアップして構成。「メロディー・フェア」アライヴ」などの曲目も入っているが、中でも次の3曲が加わっているのはうれしい。

## ●マイ・ワールド／My World

スロー・メディアムのナンバー。前半をロビンが、後半をバリーがリード・ヴォーカルを担当したメロディアスな作品。ハーモニーの美しさを強調した構成と、次第に盛りあがっていくドラマチックな仕上げで実力を発揮。

## ●救いの鐘／Saved By the Bell

ロビンが独立活動を始めて放った第2弾ヒット。コーラスとストリングスでロビンのヴォーカルをつつみこむような感じで仕上げた、ナイーブな感覚にあふれる作品である。ロビンお得意の正調派をきどった唱法が聞かれる。

## ●イン・ザ・モーニング

Morning of My Life

映画「小さな恋のメロディー」で効果的に使われていた作品。バラード仕立てバリーのハスキーな声を上手く生かした、少々センチメンタルなムードの曲。1日を人生にたとえた歌詞の美しさが心にしみる佳曲である

この他にも発売されているLPはある

イギリスではオーストラリア時代の作品を集めたLP "Rare, Precious Et Beautiful" Vol.1, Vol.2, Vol.3 と計3枚が発売されており、日本ではほぼ同じ内容によるLPとして、2枚組みの「ノスタルジア／ザ・ビー・ジョーズ」MP-9409-10が発売されている。

また映画のサウンド・トラックとして「小さな恋のメロディー／ザ・ビー・ジョーズ」MP-2172が発売されており、ここには渡英する直前にオーストラリアで放ったビッグ・ヒット「スピックス・アンド・スペックス／Spicks & Specks」が収録されている。

この「スピックス・アンド・スペックス」はちゃんと絶叫しなかったが、もう1曲だけ全LPからもれているために紹介できなかった曲がある。タイトルは「トゥモロー・トゥモロー」。これは69年5月、「若葉のころ」のすぐ後に放ったヒット曲である。

そして今、アメリカでは最新作 "Wouldn't I Be Someone" がヒット中。そしてまた近々この曲を収めた1枚目の最新録音によるLPが発売される予定である。

それではイギリスでのデビュー曲から今日までに発表した全レコードのディスコグラフィーを紹介しておこう。( )内はアメリカ・ビルボード誌によるランキングである。

## 〈SINGLE〉

●New York Mining Disaster 1941 (67.5.27—④)

●To Love Somebody(67.7.15—⑩)

●Holiday(67.9.30—⑩)

●Masachusettes(67.11.11—⑩)

●World

●Words(68.1.20—⑨)

●Jumbo(68.4.6—⑤)

●Ive Gotta Get A Message To You (68.8.17—⑧)

●I Stared A Joke(68.12.21—⑤)

●First of May(69.3.22—①)

●Tomorrow Tomorrow(69.5.31—④)

●Saved By the Bell(ロビン・ギブ)

●Don't Forget To Remember (69.9.20—③)

●If Only I Had My Mind On (70.3.28—③)

●I.O.U.(70.7.11—⑥)

●Lonely Days(71.1.2—①)

●How Can You Mend A Broken Heart(71.8.13—①)

●Don't Wanna Live Inside Myself

●My World

●Run to Me(72.9.30—⑥)

●Alive(72.12.16—④)

●Saw A New Morning (73.3.24—③)

●Wouldn't I Be Someone(上界中)

●Melody Fair(日本のみ)

●Morning of My Life(日本のみ)

●Sea of Smiling Faces(日本のみ)

〈Album〉

●Bee Gees 1st……67年7月発売

●Horizontal……68年2月発売

●Rare, Precious & Beautiful……68年4月発売

●Idea……68年9月発売

●Rare, Precious & Beautiful Vol.2……68年11月発売

●Rare, Precious & Beautiful Vol.3……69年2月発売

●Odessa……69年3月発売

●Best of Bee Gees Vol.1……69年10月発売

●Cucumber Castle……70年4月発売

●Two Years On……70年12月発売

●Trafalger……71年11月発売

●To Whom If May Concern……72年10月発売

●Life In A Tin Can……73年3月発売

●Best of the Bee Gees Vol.2……73年6月発売

●Sound Track "Melody Fair"……

●Nostalgia……72年5月発売

全ヒット曲を殆ど網羅したLPとしては2枚組みの「マイ・ワールド／ザ・ビー・ジョーズ・ベスト・コレクション」MP-9403-4が最適である。収録された24曲は彼らの足跡をストレートに伝えてくれる進曲となっている

〔音楽評論家：三浦 恵〕

ビー・ジョーズといえばよく、映画「小さな恋のメロディー」の主題曲「メロディー・フェア」をおもい出す人が多いことでしょう。スクリーン・ミュージックとは、映像と音楽が同時に呼吸するものです。それにヒット・ソングと映画のかわり合いもまた、切っても切れない関係にあります。ヒットしていた曲を映画にとりいれて、改めて決定的な大ヒットとなった、ビー・ジョーズの歌う「メロディー・フェア」や「若葉のころ」といったナンバーは、今では、ポピュラー・ミュージックのスタンダード・ナンバーとなっているほどです。こうした師は、ほかにも超人物の前にありました。それはサイモンとガーファントルのヒット曲を使った、1967年製作、日本公開88年のアメリカ映画「卒業」です。

1972年3月以来、2度目の来日公演をしたイギリスの人気兄弟チーム、ビー・ジョーズのヒット・ナンバーを使った作品、それは1971年のイギリス映画「小さな恋のメロディー」です。

製作者デビッド・バトナムは70年にロビン・ウィリアム・ストーンのミック・ジャガー主演映画「ファーマンズ」を作った以来、これが2本目で当時29才でした。監督のワリス・フセインは33才、メイン・スタッフの平均年齢27才というヤング・パワーが、ビー・ジョーズのヒット・ナンバーやクロスビー・スティルス・ナッシュ・アンド・ヤングの歌を映画により入れる原動力となったのです。

ここで映画「小さな恋のメロディー」を思い出してみましょう。イギリスのバブ・ラック・スクールに、お金持の家のこどもと長少年のダニエル・ラティマー（マーカ・レスター）と、ガキ大将より番長でソバカスだらけの貧しい少年トム・オーショ（ジャック・ワイルド）がいました。2人は同級生で11才、ダニエルは少し弱いし、トムはとてむこうっ気の強いイタズラ坊やです。この2人なせきとともう気が合ってすぐく仲良しです。もちろん女のこのことよりもいたずら顔白くて仕方ありません。こどもたちの世界はのびのびとしていて生き生きとした毎日です。

ある日ダニエルはバレエのレッスンをしている女生徒たちをのぞいていて、とってもかわいらしい女のこを見つけた。それからというもの、仲良しのトムのさう遊びにも身がはいらないし、せつない片思いがずっと勉強も気もさぞろ、おともこどもも「恋」って不思議なものです。ダニエルは運動会の時にも、愛する彼女の顔をおもいうかべて夢中で走って、1等になってしまうほどです。

彼女の名前はメロディー（トレイシー・ハイド）。ダニエルはいつもメロディーのあ

とをついて歩くしつです。メロディーも女ともだちからダニエルの恋心を知られて、だんだんにダニエルが好きになります。トムもはんとはメロディーが好きなんです。ダニエルとトムが宿題を忘れて、受持ちの先生からびしやりびしやりとしたなかにお尻をたたかれた午後、泣きさへ顔で教室から出てくると、階段の下に、涙をためてやさしくはは笑むメロディーが待っていたのです。やさしさをやいてダニエルを引きとめるトムをいいて、メロディーとダニエルは走って行ってしまいます。

ダニエルとメロディーは、美しい若葉がかわやく木もれ陽の射す、静かで明るいお庭でデイトします。ダニエルは「ねえ、ばくと結婚しない？」ええいつかね、でもどうしておとなって、結婚するとダメになっちゃうのかしら」「きつとわかりすぎるからだと思うなばくは……」そうね、



# ビー・ジョーズと映画音楽

全部わかったらうからだわ」

空日ふたりは学校を休んで、海辺へあそびにゆきました。夏の太陽と潮風をあびて思いやり楽しめました。次の日、学校を休んだことを叱られて先生からお説教された2人は、はっきりと宣言します。「ばくと結婚します」。さあーだいべん、縁の果をついたような大さわぎになったのは、先生たちのほうです。

教室に帰ってきたダニエルたちをからかったのはトムです。親友のトムとダニエルの取っ組み合いの大げんかが初まりました。でもトムはまじめなダニエルの恋心を知ってあやまり、2人を結婚させてやもうと宣言します。

ダニエルの母親から「ふたりは逃げ落ちました」という電話を受けた学校では、生徒たちが集まってもらえない生徒たちを探しはじめます。いっぽうこどもたちは全員、学校を抜け出して原っぱに

り出します。必死になって追う先生たち、逃げる生徒たち、息をきらせる先生や父母たちで、てんやわんやの大さわぎになります。2人はやがて原っぱに1本とわっているトロコに乗って清きながら、花咲みだれる野原をはるか遠くへ歩いてゆくののです。

ビー・ジョーズのナンバーは10曲つづいていて、主題曲の「小さな恋のメロディー」「メロディー・フェア」は愛らしいメロディーのテーマでもあるわけ、彼女が買った金魚を、遊びにゆく途中、街にそなえつけてある石の水を満したいもののなかに放してみたりするシーンに、ビー・ジョーズの歌で流れます。また「若葉の頃」はダニエルとメロディーがお庭で楽しく愛らしいデイトをする話のいのに、さわやかな明るい歌声で、たいそう印象的に使われます。そして、ダイナミックなビートをきかむ「シーサイド・

なお未だでブロードのモーリス・ギブ夫人のルルも、1973年9月、バブ・ラック・スクールに出演して主題歌を歌いました。ルルはもともと若手人気歌手です。彼女は映画初出演でおませな不良少女のボス役でのちにまともな生徒になる役を演じました。これは現ギブナ国連大使が青年時代に教師としてロンドン下町の学校に

つとめ、児童で下品な手のつけられない生徒たちを普通の生徒たちに教育しながらして学校を去るまでの、愛と感動の実話の映画化作品です。

昨年の来日コンサートの夜、客席の隅の隅に立ちつくしていたルルは、日本での聴衆の大きな拍手や、かみ声に涙くビー・ジョーズのコンサートに、ある時は笑いながら、時に涙をしばたいて心から嬉しそうに、感激して耳をかなでいていた姿が、わたくしには今も深い感動とともに、つい昨日のことのように思い出されます。

なお、野の草花で作った花束やかんむりてクラスメートの女の子たちが、結婚式のにぎやかにしたくする間、男の子たちは急場づくりで大わらわしますが、そこへ先生たちが聞いてかけてきます。そんなシーンに皮肉なっふりてユーモアをこめて歌われるのが、クロスビー・スティルス・ナッシュ・アンド・ヤングの「ナイー・ユア・ナルドレン」です。そしてこどもたちがウーアッ先生たちを逆殺するあたりのナンバーが、リチャード・ヒューソン作曲でリチャード・ヒューソン・オーケストラ演奏による「先生を追いかけろ」なのです。

ほかにもダニエルがメロディーへの片想

いになやむときなどに「ラブ・サムバディ」が歌われます。そして「イン・ザ・モーニング」などがそれぞれに印象的なシーンに流れます。

製作者のデビッド・バトナムは「この作品は一種のミュージカル映画と考えていただきたいのです。なぜならば、音楽こそは世界の共通語です。音楽による人との対話によって、愛と平和の心のつながりのある世界を創り出すことができるのですから」と語っています。その意味からもビー・ジョーズの作詞・作曲して演奏し歌った映画「小さな恋のメロディー」における多くのナンバーが、フレッシュでみずみずしい映画にあふれた魅力が、どれほど大きかったかということが、映画の大ヒットで証しとなったことがわかります。

なお未だでブロードのモーリス・ギブ夫人のルルも、1973年9月、バブ・ラック・スクールに出演して主題歌を歌いました。ルルはもともと若手人気歌手です。彼女は映画初出演でおませな不良少女のボス役でのちにまともな生徒になる役を演じました。これは現ギブナ国連大使が青年時代に教師としてロンドン下町の学校に

つとめ、児童で下品な手のつけられない生徒たちを普通の生徒たちに教育しながらして学校を去るまでの、愛と感動の実話の映画化作品です。

昨年の来日コンサートの夜、客席の隅の隅に立ちつくしていたルルは、日本での聴衆の大きな拍手や、かみ声に涙くビー・ジョーズのコンサートに、ある時は笑いながら、時に涙をしばたいて心から嬉しそうに、感激して耳をかなでいていた姿が、わたくしには今も深い感動とともに、つい昨日のことのように思い出されます。

〔音楽評論家：岡部通子〕





私に、私の秋。

素材に、デザインに、心をこめたマリムラのコレクション。お求めは●本社＝東京都豊田区五川田圃南1-14-11 ☎(03)721-7171-9 チューン店＝東京  
●銀座西の巻 ☎(03)571-6638 ●銀座コアビル2F ☎(03)572-7728 ●新宿ステーションビル3F ☎(03)354-7305 ●渋谷東急プラザ5F ☎(03)463-3906 ●パルコ  
池袋3F ☎(03)967-0495 ●自由が丘 ☎(03)717-5001-5005 ●横浜 ●ダイヤモンド地下 ☎(045)311-3636 ●浜松 ●道頓町店ビル4F ☎(0534)53-6438 ●名古屋  
●名鉄メルパ1F ☎(052)582-6961 ●大塚 ●池袋3番街B1 ☎(06)372-6956 ●池袋ファイア1F ☎(06)312-8347 ●銀座アイ・マリオ ☎(03)571-3062・3061

MARIO  
MARIMURA

CONFECTIONERY AND RESTAURANT

アマンド

くつろぎの中で味わう アマンド風鉄板焼

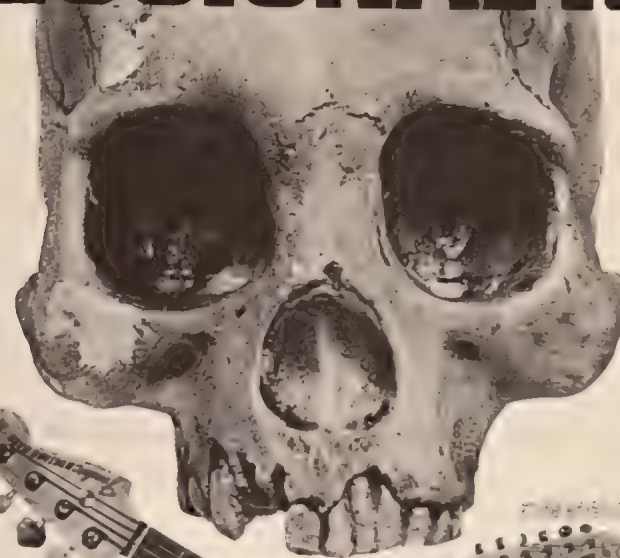
ALOP  
AMIN  
CONFECTIONERY

斧町店鉄板焼コーナー

〒107 アマンド 107 港区西麻布1-15-7  
PHONE 403-1181・1188

ラブ・サウンズのキョードー東京が  
書籍出版をはじめました  
どうぞよろしく

# PROFESSIONAL ROCK



バンド経営のための戦略・  
関係法規・契約書のつくり  
方など、かゆいところに手  
の届く実用書!

相倉久人  
青木 誠  
中山久民  
共著

A4変型・136ページ・定価1,650円

P.A.はロック・サウンドの鍵だ!

来日ミュージシャンのマイク・アンプ・P.A.・  
アグラムを特別公開! —— ロック・ミュージックの  
ビートルズ、エルトン・ジョン、ジューズ・ニ  
ラー、ビルジョー・メンデスとアグロ・and・T  
ンディ・ウィリアムズ、大出陣

発行 株式会社キョードー東京 107 港区北青山3-6-18 共同ビル10階 ☎03-407-8131 振替:東京98240・キョードー

ラブ・サウンズのコンサート情報は「ハイ・ミュージック」をご購読ください。1年間6冊発行で送料共900円



1945

1946

1948

1949

1956

1958

1960

1963

1964

1965

1966

1967

8月18日 ●元メンバーのビンス・メロニー、オーストラリアのシドニーで生れる。

3月24日 ●元メンバーのコーリン・ピーターセン、オーストラリアのタインズランドで生まれる。

9月1日 ●イギリス、マン島でグラス・バーバラ、ヒュー・ギブ夫妻の間に長男のバーニー誕生。

5月2日 ●元ドラマー、ジョフ・ブリッジフォード、オーストラリアで生まれる。

12月22日 ●ロビン・ギブ、モーリス・ギブの双子の兄弟誕生。

●ギブ兄弟、アマチュア、ロック・グループを結成。

●ギブ一家、イギリスからオーストラリアのブリスベーンへ移住。

●ブリスベーンのローカル・ステーション4 KQの「タレント・ゲスト」という番組に出演。

3月 ●ブリスベーンのABCテレビから30分のレギュラー番組「Anything Goes」に出演。

1月 ●ギブ兄弟「三つのキス」"Three Kisses of Love"（「バリー」作曲）でフェスティヴァル・レコードからデビュー。

●「三つのキス」に続く第2弾「ティンバー」"Timber"（「バリー」作曲）でフェスティヴァル・レコードからデビュー。

●この頃、前記のヒット曲を収めたLP「ビー・ジャーズ・ヒット・アルバム」[オーストラリアの思い出]をフェスティヴァル・レコードからリリース。

●オーストラリアで「最優秀作品賞」を受賞。

●オーストラリアで65年に続き2年連続「最優秀作品賞」を受賞、更に最優秀オーストラリア・グループにとらばれる。

2月 ●オーストラリア時代最後のヒット曲「スピックス・アンド・スペックス」"Spicks & Specks"、Nailとなる。[この曲はイギリスでのデビュー盤となり、オランダでもNo.1のヒット曲になる。]

●ギブ一家、オーストラリアから再びイギリスにもどる。

2月24日 ●ビートルズのマネージャーであった故ブライアン・エプスタインが主宰していたネムズ・エンタープライズのマネージング・ディレクター、ロバート・スタグウッドと5年間の契約を結びオーストラリア生まれのコーリン・ピーターセン、ヴィンス・メロニーを加え、ビー・ジャーズ、デビュー。

5月5日 ●「ニューヨーク炭鉱の悲劇」"New York Mining Disaster 1941"を発売、同時にアトコ・レコードと25万ドルの契約を結ぶ。

5月20日 ●同曲「メロディ・メーカー」[以下MM紙と略す]で17位にランク。

1968

3月26日 ●同曲「キャプシュ・ボッタス」[以下CB紙と略す]早くも73位。

7月1日 ●同曲CB紙で最高17位、「ビルボード」[以下BB紙と略す]では14位。

●オーストラリア国籍のままイギリスで演奏してはいけないということでファン騒ぐ。

8月26日 ●シングル「ラヴ・サムバディ」"To Love Somebody"（日本のデビュー曲）CB紙で25位、BB紙では17位まで上昇。

9月2日 ●同曲CB紙で24位にランク。

10月14日 ●オーダーだけで25万枚を突破した「ホリデイ」"Holiday" CB紙で48位。

10月21日 ●日本でも最大のヒット曲となった「マサチューセッツ」"MASSACHUSETTS"（ニュー・ミュージカル・エクスプレス紙 [以下NME紙と略す]、MM紙で共に第1位となる。

11月4日 ●アメリカでは「ホリデイ」がCB紙で14位、BB紙で21位。

11月22日 ●NME紙に「ワールド」"World" 初チャート19位。

11月25日 ●MM紙でも同曲27位に初チャート。

12月9日 ●「マサチューセッツ」CB紙で11位。

1月 ●アメリカでは予約注文だけで10万枚を突破したデビュー・アルバム「ザ・ビー・ジャーズ・ファースト」[ニュー・ヨーク炭鉱の悲劇、ホリデイなど全14曲を収録]日本で発売、シングル「マサチューセッツ」も大ヒット。

1月31日 ●MM紙で「ワーズ」"Words" 25位に初チャート。

2月2日 ●初めてのアメリカ公演をハリウッド近くのアナハイム・コンヴェンション・センターで2回行う。その収益は2万5千ドル以上にのぼり、彼らは公演後1週間カリフォルニアに滞在。

2月17日 ●「ワーズ」CB紙で最高27位まで上昇。

2月26日 ●ビー・ジャーズのミュージカル・ディレクター、ビル・シェファードが指揮する20人のイギリスのミュージシャンからなるオーケストラと共にドイツ公演を行う。[3月12日まで]

3月29日 ●イギリス、リーズのタウン・ホールでコンサート。[ゲストはグレイプ・フルーツ、ディブ・ディ・グループ、なほ4月21日から27日まではファウンティッシュンズ]

3月30日 ●チェスターABCにてコンサート。

3月31日 ●マンチェスター・パレスにてコンサート。

4月1日 ●レチェスターのドゥ・モン・フォー・ホールにてコンサート。

4月4日 ●ケンブリッジのリーガルにてコンサート。

4月5日 ●スロウのアデルフィにてコンサート。

4月6日 ●シェフィールドのシティ・ホールにてコンサート。

4月7日 ●バーミンガムのハイボドームにてコンサート。

4月10日 ●カーライルABCにてコンサート。

●「マサチューセッツ」「ワールド」などを収めたLP「マサチューセッツ/ザ・ビー・ジャーズ」日本で発売。

1969

4月11日 ●グラスゴーのデリーズ・ブレイハウスにてコンサート。

4月12日 ●エジンバラABCにてコンサート。

4月13日 ●ストックトンABCにてコンサート。

●シングル「ジャンボ」"Jumbo" MM紙で27位にチャート。

4月14日 ●リバプールのエムパイアにてコンサート。

4月17日 ●ボーツマスのガイド・ホールにてコンサート。

4月19日 ●ハンリーのゴーストにてコンサート。

4月20日 ●バルトンのオデオンにてコンサート。

●CB紙で「ジャンボ」54位、BB紙は57位。

4月21日 ●ハイルABCにてコンサート。

4月22日 ●リンカーンABCにてコンサート。

4月24日 ●サリスベリーのオデオンにてコンサート。

4月25日 ●ロンフォードのオデオンにてコンサート。

4月26日 ●エクスターのオデオンにてコンサート。

4月27日 ●カーディフのキャピトルにてコンサート。

4月28日 ●トウーティングのグラナダにてコンサート。

5月1日 ●コークのサヴィイにてコンサート。

5月2日 ●ダブリンのアデルフィにてコンサート。

5月3日 ●ベルファーストABCにてコンサート。

6月11日 ●ドラマーのコーリン・ピーターセン、マネージャー秘書のジョアン・ニュートン(23才)と結婚。

7月末 ●アメリカ合衆国コンサート。トゥーアーに向かう予定がロビン・ギブのノイローゼで延期。

8月2日 ●イギリスで「獄中の手紙」"I've Gotta Get a Message to You"をリリース。

8月31日 ●同曲NME紙で2位、MM紙で3位にランク。

9月1日 ●「獄中の手紙」「ジョーク」「ジャンボ」などを収めたアルバム「アイディア/ザ・ビー・ジャーズ」イギリスでリリース。

10月5日 ●同アルバムCB紙LPチャートで13位。

10月 ●「キッチナー卿の小さなドラマー少年」の撮影のためケニアへロケ。

12月 ●メンバー、オーストラリアに戻る。

12月4日 ●ロビン、18才のモーリー・フリーズと結婚。[結婚へ進展するきっかけは、一年前の列車事故の時、ロビンが彼女を助けたということ。]

12月10日 ●LP「アイディア」日本で発売。

12月中旬 ●モーリス、イギリスにもどりルルとの婚約を発表。

●ヴィンス・メロニー、グループを脱退。

2月8日 ●「ジョーク」「I Started A Joke」CB紙で6位。

2月 ●脱退したヴィンス・メロニーのプロデュースにより、ニュー・グループ、アシュトン・ガードナー&ダイク、デビュー。

1970

2月第2週 ●「若葉のころ」"First of May" イギリスでリリース。

2月16日 ●ルルとモーリス結婚。

3月1日 ●「若葉のころ」「メロディ・フェア」などを収めた彼らは初めての2枚組アルバム「オデッサ」CB紙で初ランク56位。

3月22日 ●「若葉のころ」、MM紙で7位、NME紙では8位にランク。

3月29日 ●「オデッサ」CB紙で最高20位。

4月19日 ●「若葉のころ」CB紙で18位。

4月 ●ロビン・ギブ、グループを脱退。

5月28日 ●モーリス、家の近くでロールス・ロイスを運転中、事故をおこし軽いケガをする。

5月31日 ●3人になったビー・ジャーズのシングル「トゥモロウ・トゥモロウ」"Tomorrow Tomorrow" CB紙で51位。

6月21日 ●同曲NME紙で25位。

6月27日 ●ロビン・ギブ初のソロ・シングル「救いの鐘」"Saved by The Bell" イギリスでリリース。

●ドラマのコーリン・ピーターセン、グループを脱退。メンバーはバリーとモーリスの2人となる。

●バリー69年度ベスト・ドレッシング・No.1に選ばれ、500ポンドの銀製の像を授けらる。

8月23日 ●「救いの鐘」、NME紙で2位、MM紙でも2位。

8月30日 ●「思い出を胸に」"Don't Forget To Remember" NME紙で12位、MM紙で11位、CB紙で76位初チャート。

9月 ●TV映画「キューカンパー・キャスル」"キャプチャー・オブ・ザ・キャスル"の撮影に入る。

9月10日 ●「トゥモロウ・トゥモロウ」日本で発売。

9月20日 ●「思い出を胸に」、NME紙で2位。

9月27日 ●同曲MM紙で2位。

秋 ●アルバム「The Best of Bee Gees」ゴールド・ディスクを受ける。

●バリーとモーリス、ニューレーベルGEE GEEを創立。

1月 ●バリーとモーリス共演のテレビ映画「キューカンパー・キャスル」68年暮から13週間にわたって、イギリス、アメリカで放映。

3月10日 ●ロビン・ギブの第2弾ソロ・シングル「ミリオンの年」"A Million Years"日本で発売。

5月10日 ●ロビン・ギブの第3弾シングル「夏と秋の間に」日本で発売。

6月10日 ●ロビンのソロ・アルバム「救いの鐘/ロビン・ギブ」日本で発売。

7月10日 ●アルバム「キューカンパー・キャスル」日本で発売。同時にシングル・カットした「アイ・オー、アイ・オー」"I.O.I.O."がヒット。

●モーリス、バリーとのコンビを続けながらソロ・シングル「レイルロード」"Railroad"日本で発売。

8月10日 ●バリー・ギブのシングル「I'll Kiss Your Memory」、日

1971

本で発売。

夏 ●この頃バリーとモーリス、「小さな恋のメロディ」のサウンド・トラックやバーバラ・ウィンザーと共演の、「Sing A Rude Song」に出演、また音楽を担当。

●ロビン・ギブ・グループ脱退後17ヶ月ぶりにバリーとモーリスのもとにもどる。

9月1日 ●バリー、リンダ・グレイ(20才)と結婚。

9月30日 ●ギブ兄弟が再び一緒にになって初めてのアルバム「トゥー・イヤーズ・オン」からのシングル「ロンリー・デイ」"Lonely Days"をイギリスでリリース。

10月31日 ●ビー・ジャーズ再結成後初めてLW-TVに出演。

11月27日 ●アルバム「トゥー・イヤーズ・オン」、イギリスでリリース。

12月12日 ●イギリスのラジオ・キャンペーン「STAMP OUT TONY BLACK BURN」に出演。

12月26日 ●映画「キューカンパー・キャスル、ブラインド・フェア」のハイド・パークにおけるコンサートフィルムと共に放映される。

1月16日 ●「トゥー・イヤーズ・オン」、CB紙LPチャート84位に初ランク。

1月30日 ●「ロンリー・デイ」、ドーンの「ノックは3回」に代ってCB紙で第1位となり、同時にRIAA公認のミリオン・セラーとなる。

2月 ●アメリカを始め、イギリス、東南アジア、ヨーロッパ諸国、オーストラリア等でコンサート・ツアーを行う。

5月10日 ●アルバム「トゥー・イヤーズ・オン」、「ロンリー・デイ/ザ・ビー・ジャーズ」として日本で発売。

6月26日 ●ヘラルド映画「小さな恋のメロディ」[ワリス・フセイン監督、マーク・レスター、ジャック・ワイルド、トレーシー・ハイド主演、ビー・ジャーズ、サウンド・トラックを担当]日本で公開、「ある愛の詩」をしのぐほどのロング・ランとなり秋まで続映。

6月～9月 ●同時に主観歌「メロディ・フェア」"Melody Fair"大ヒット。

8月 ●元ティン・ティンのドラマー、ジョフ・ブリッジフォード、ビー・ジャーズに加わる。

8月10日 ●シングル「傷心の日々」日本で発売。

8月14日 ●「傷心の日々」"How Can You Mend A Broken Heart" CB紙で第1位、「ロンリー・デイ」に続くRIAA公認のゴールド・ディスクとなる。

9月 ●アメリカでコンサート・トゥアーを行う。

9月25日 ●「傷心の日々」「イスラエル」などを収めたLP「トラファルガー」アメリカで発売、CB紙LPチャート62位初登場。

10月10日 ●シングル「イン・ザ・モーニング」"In the Morning"日本で発売。

10月23日 ●「トラファルガー」CB紙で最高18位にランク。

1月13日 ●シングル「マイ・ワールド」"My World"イギリスでリリース。

●アルバム「トラファルガー」の中の曲「過ぎ去りし愛の夢」"Don't Wanna Live Inside Myself"日本で発売。

1972

1月22日 ●「マイ・ワールド」CB紙初登場50位。

1月27日 ●ニュージーランドのオークランドで公演。

1月29日 ●オーストラリアのメルボルンにて公演。

1月30日 ●シドニーにてコンサート。

2月1日 ●ブリスベーンにてコンサート。

2月3日 ●アデレードにてコンサート。

2月4日 ●パースにてコンサート。

2月5日 ●「マイ・ワールド」CB紙チャート3週目で34位。

2月25日 ●オランダ公演。●アムステルダムでテレビにゲスト出演。

2月26日 ●「マイ・ワールド」CB紙18位。

3月4日 ●同曲CB紙15位。

3月9日 ●インドネシアのジャカルタにてコンサート。

3月10日 ●「マイ・ワールド」日本で発売。同時に2枚組来日記念アルバム「マイ・ワールド/ザ・ビー・ジャーズ、ベスト・コレクション」発売。●今日から13日までシンガポール、香港公演。

3月20日 ●初の来日。●ドラマーのジョフ・ブリッジフォード脱退。

3月22日 ●記者会見とレセプションが東京ヒルトン・ホテルで行われた。席上ボリドールから「小さな恋のメロディ」の大ヒットを記念してバリー、ロビン、モーリスにワールド・ディスクを贈る。

3月23日 ●渋谷公会堂でコンサート。

3月24日 ●武道館でコンサート。

3月25日 ●大阪フェスティヴァル・ホールでコンサート。

3月28日 ●次のコンサート地のタラランブールへ出発。

4月 ●ニュー・アルバムのレコーディングをロンドンで始める。

7月7日 ●「ラン・トゥ・ミー」"Run To Me"イギリスで発売。

10月 ●「ビー・ジャーズの新しい世界」"To Whom It May Concern"イギリスで発売。

10月23日 ●「アラキヴ」"Alive"イギリスで発売。

11月21日 ●「ははえみの海」"Sea of Smiling Faces"日本で発売。

2月19日 ●イギリス・ロイヤル・フェスティヴァル・ホールでロンドン・シンフォニーをしながらコンサート。

3月1日 ●彼等のプロデューサーであり、また所属プロダクションの社長であるロバート・スタグウッドが「新レーベル」"RSO"を設立し、E・クラブトン、J・ブルース、WB&L、リット・グレッグ達とともに、ボリドールよりRSOへ移る。

●アルバム「ライフ・イン・ア・ティン・キャン」"Life In A Tin Can" 発売。

3月30日 ●「希望の夜明け」"Saw A New Morning"イギリスで発売。

4月 ●アメリカNBC-TVの、「ミッドナイト・スペシャル」出演。

6月 ●イギリス国内コンサート。

6月22日 ●「ひとりぼっちの夏」"Wouldn't I Be Someone"とアルバム「ベスト・オブ・ビー・ジャーズ、VOL II」イギリスで発売。

7月28日 ●アメリカNBC-TV「ミッドナイト・スペシャル」へ再び出演。

9月 ●2度目の来日。

11月 ●ニュー・アルバムがイギリスで発売予定。

1973

ビー・ジャーズ年代譜

BEE GEES



生きるよろこび……ラヴ・サウンズの王者、ザ・ビー・ジーズ

# 心に微笑を。

THE BEE GEES



来日記念盤

## ベスト・オブ・ ビー・ジーズ VOL II



傷心の日々/アイ・オー・アイ・オー/過ぎ去りし  
愛の夢/メロディ・フェア/マイ・ワールド/愛が  
あるなら/救いの鐘/ロンリー・デイ/イン・ザ・  
モーニング/思い出を胸に/そして太陽は輝く/ラ  
ン・トゥー・ミー/恋のシーズン/アライブ

●MW-2073 ¥2,000

好評発売中

好評発売中



### 小さな恋のメロディ

ヘラルド映画「小さな恋のメロディ」  
オリジナル・サウンド・トラック  
イン・ザ・モーニング/メロディ・フェア/ス  
ピックス・アンド・スベックス/ワイルド・サ  
ム・バディ/1日中踊ろう/恋のころ/シーサイド  
・パンション/先生を盗みかけろ/タイチ・  
ユア・カルドレン

●MP-2172 ¥2,000



### マイ・ワールド/

ザ・ビー・ジーズ・ベスト・コレクション

マサチューセッツ/ニュー・ヨーク/ロサンゼルス  
タム・オブ・センチュリー/ラヴ・サム・バ  
ディ/メロディ・フェア/アイ・オー・アイ・  
オー/思い出を胸に/恋のころ/イン・ザ・  
モーニング/ロンリー・デイ/ロゼッタ/ウー  
マン/恋のシーズン/マイ・ワールド/他全24曲

●MP-9403/4 2枚組 ¥3,000



### ザ・ビー・ジーズ/ ゴールデン・ダブル・アルバム

マサチューセッツ/ニュー・ヨーク/ロサンゼルス  
タム・オブ・センチュリー/ラヴ・サム・バ  
ディ/メロディ・フェア/アイ・オー・アイ・  
オー/思い出を胸に/恋のころ/イン・ザ・  
モーニング/ロンリー・デイ/ロゼッタ/ウー  
マン/恋のシーズン/マイ・ワールド/他全24曲

●MP-9317/8 2枚組 ¥3,000



### ライフ・イン・ア・ティン・キャン/ ザ・ビー・ジーズ

希望の夜明け/アイ・ドント・ワナ・ビー・ジ  
・ワン/サウス・ダコタ・モーニング/リヴ  
・イン・シカゴ/ホワイ・アイ・ブレイ  
・マイ・ライフ/ハズ・ビーン・ア・ソング/  
カム・ホーム・ジョニー・ブライディ/メソ  
ッド・トゥー・マイ・マッドネス

●MW-2046 ¥2,000

来日記念シングル

## ひとりぼっちの夏

片面=エリーサ

ザ・ビー・ジーズ

●DW-1075 ¥500



発売元/ポリドール株式会社

# 愛の色。

秋のLove Sounds



炎の男一愛、その喜びを歌う。初来日!!

### ラファエル

RAPHAEL ONE MAN SHOW

東京公演

9月25日(水)・26日(木)・27日(金)・28日(土)

7:00P.M.芝・郵便貯金ホール

A=¥2,500/B=¥2,000/C=¥1,500

ラブ・シート(2名様)=¥4,500

大阪公演

9月30日(日)10:00P.M.フェスティバルホール

S=¥2,500/A=¥2,000/B=¥1,500

BOX=¥3,000/ラブ・シート(2名様)=¥4,500

ヒット曲=ラン・ジョー・ローナ/ラ・パ・パ/ワーク・ソング

オルフェの歌/生きる喜び/ライダース・イン・ザ・スカイ



### ニーナ・シモン

NINA SIMONE(初来日!!)

東京公演

10月26日(金)・29日(日)7:00P.M.新富・厚生年金ホール

31日(月)・11月1日(火)7:00P.M.芝・郵便貯金ホール

A=¥2,500/B=¥2,000/C=¥1,500

ラブ・シート(2名様)=¥4,500

大阪公演

10月24日(金)6:30P.M.フェスティバルホール

S=¥2,500/A=¥2,000/B=¥1,500/C=¥1,500

BOX=¥3,000/ラブ・シート(2名様)=¥4,500

横浜公演

10月27日(日)6:30P.M.神奈川国立音楽堂

A=¥2,500/B=¥2,000/C=¥1,500

名古屋公演

10月23日(水)6:30P.M.

名古屋公演

10月23日(水)6:30P.M.愛知文化会館

静岡公演

10月30日(火)6:30P.M.静岡文化会館

ヒット曲=葉子の果実/アイ・ラブ・ユー・ボギー/

ヒア・カムズ・ザ・サン/愛を信じて/時代は変わる



### ポール・モーリア

グランド・オーケストラ

PAUL MAURIAT GRAND ORCHESTRA

東京公演

11月10日(土)・28日(日)7:00P.M.11日(月)8:00P.M.

新富・厚生年金ホール

27日(日)7:00P.M.渋谷公会堂

S=¥2,800/A=¥2,500/B=¥2,000/C=¥1,500

ラブ・シート(2名様)=¥4,500

大阪公演

11月29日(日)・30日(月)6:30P.M.フェスティバルホール

特=¥2,800/S=¥2,500/A=¥2,200/B=¥1,800

C=¥1,500/BOX=¥5,000

ラブ・シート(2名様)=¥5,100

横浜公演

11月15日(木)6:30P.M.横浜文化体育館

神戸公演

11月16日(金)6:30P.M.神戸文化ホール

ヒット曲=恋はみずいり/エーゲ海の真珠

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン



### トニー・ベネット

TONY BENNETT

東京公演

11月19日(日)・24日(土)7:00P.M.新富・厚生年金ホール

S=¥3,500/A=¥3,000/B=¥2,500/C=¥2,000

D=¥1,500/ラブ・シート(2名様)=¥6,500

大阪公演

11月23日(日)7:00P.M.フェスティバルホール

ヒット曲=霧のサンフランシスコ

フォー・ワンス・イン・マイ・ライフ/おもいでの日

フー・キャン・アイ・ターン・トウ/ある愛の詩

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン

この胸のときめきを/涙の別れ/悪いノクターン





さわやがさん

彼、私のこと考えてくれるかしら……  
くれてたら、  
花と麒麟レモン…届けよう。  
地球は花園。



さわやか・すきとおった  
**麒麟レモン**  
麒麟ビール株式会社

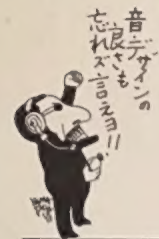


魚入り麒麟レモン全国いっせいに新発売! お近くのお酒屋さんなどでお求めください。

National



ミキシングプレイがいろいろできる 《一枚うわ手の録音機》



お気に入りのアーティストと共演できる  
MAC自慢のミキシングプレイ!

自慢のテープ再生とゴキゲンなボーカル  
をミキシング…音の調整も自由自在!  
ミキシングプレイで唄うキミの歌声を  
そのまま生かしてオリジナル録音!

オーディオ感覚いっばいの  
MAC-ff自慢の新機構です

- ★超高度のシンド(FM・MW・SW)を安定受信
- ★オーディオ仕様…25ワットの強力パワー
- ★気ラクで安心…スリープスイッチ採用
- ★テープ終了時に止るオートストップ
- ★音量調整のいらない自動録音方式
- ★充電式電池もOKの4電源方式

プレイ録音機マック

**MAC ff**  
RQ-448 標準価格 34,800円  
本体33,740円 テープ700円 乾電池60円・4イオン120円  
別売バックパック RP 9448標準価格2,000円  
ナショナル・オーディオ・システム・イン・ジャパン

①高感度の内蔵マイクに!  
ワイヤレスマシンを収納するだけで、  
エレクトレット型コンデンサマイクに。

②ワイヤード・マイクにも!  
外部マイク端子に付属のミニコードで接続  
するだけ。ハンドタイプとしてフルに使える。

③取り外すとワイヤレスマイク!  
本機が2台あれば、トランシーバーにも一々それぞれの発振周波  
数をずらせばワイヤレス交信がOK。また同時通話も可能。

④MAC-ffのサウンドをON-AIR!  
ワイヤレスマシン内蔵状態で、スイッチONにするだけ。  
テープを再生しながら同時にサウンドをFM電波で飛ばせる。

⑤テープ・レコード・テレビなどの音もFM電波に!  
各サウンド機器のイヤホン(出力)端子に、ワイヤレスマシンを接続  
するだけでお好みの音声がFM電波に乗る。同時録音もできて便利。

※世界に伸びる技術のナショナル





Barry Gibb  
Robin Gibb  
Morris Gibb